

平成 30 年度学校評価アンケート集計結果と学校評価について

目的)

学校関係者評価を行うにあたり、内部評価(教員・生徒)に対するアンケート調査を行い、分析することで次年度の学校運営の参考にする。

調査方法および分析方法)

調査は全校生徒(176人)を対象に、独自のアンケートを作成し、行った。アンケート結果は、個別に集計し統計処理を行った。

結果)

- ・今年度はアンケート開始以来、最も低い水準であった昨年からの総ての項目で評価が回復傾向にあった。(表1、表2)。7項目において学年間に統計的な差が見られ、1年生の評価が特に高かった。
- ・CS分析の結果より、人間関係は重要度、満足度共に最も高い数値であった。授業、進路は重要度の高い項目であった(図1～6)。
- ・満足度の年度間の比較では、現3年生2年生共に数値が上昇した(表3、表4)。
- ・自由記述欄、北照高校の良いところを記載内容毎に分類した結果、学校生活、教員、部活の順で数が多かった。同じく悪いところは、施設、なし、生徒指導の順で数が多かった。
- ・教職員の自己評価は過去最低の水準であった。

自己評価)

※評価についてはAを最高として、A～Eの5段階評価で行った。

項目	評価	総 評
学校運営	B	HR指導や教科指導を中心に生徒一人ひとりを大切にしていく方針は、生徒から継続した評価を得た。加えて、昨年度まで2年連続で数値を下げていた満足度の数値が上昇したことは評価できる。 一方で、分析結果より昨年度より良好な人間関係や生徒が楽しいと思える学校行事という特定の項目のみが満足度に影響を与えるという過去の傾向が変化し始めていることが読み取れるようになった。進路・授業・生活指導など学校生活全般において、生徒の声に耳を傾けながら、学校全体の指導の質を上げていかなければならない。
生活指導	C	生徒のアンケートや教職員の自己評価から、生徒間の良好な人間関係や教員が生徒から信頼を得ることができている。このことは、本校の学校運営の根幹となっており、今後も維持し続ける必要がある。また、昨年度に目立った生徒からの不公平感もおおむね解消されたようである。一方で、平成30年度は授業中等に指導される生徒が増加したため、評価を昨年度より引き下げた。平成31年度に向けて学校全体で改善の取り組みを行っているところであり、現在は多くの生徒が落ち着いた学校生活を送ることができているが、継続の努力を要する。

進路指導	A	平成 30 年度の卒業生も、昨年度より希望者全員が進路決定をして卒業することができた。担任を中心として、進路指導部とも連携しながら、円滑な進路指導を行うことができた。ミスマッチなどによる早期離職や進学先における進路変更等を減らすため、職業体験やワインプロジェクトを中心とした 3 年間を通じたキャリア教育により力を入れることで、適切な進路を見つけ、進路先で活躍できるような力を育成することを目標に指導を行っていきたい。
教科指導	D	生徒が自己の能力に合わせた指導を受けることができたと感じている一方で、生活指導の項目でも上げた通り、授業規律が守られず指導を受ける生徒が出てしまった。平成 29 年度の評価の際に、このことを改善することを最重要課題に挙げていたにも関わらず、続いてしまったため、昨年度より評価を下げた。この原因のひとつに、問題を教科担任や学級担任が抱え込んでしまっていることが挙げられる。言うまでもなく、授業は学校の根幹であるため学校挙げて取り組み、全体で統一した指導を行うことで、必ず改善をしなければならない。
特別活動 ・ 課外活動 指導	A	学校行事には、生徒が主体的に取り組む事ができるような指導を行い、実現することができた。加えて、部活動においてもスポーツコースを中心として充実した活動を行った。野球部やスキー部は全国大会に出場し、サッカー部も全道大会で活躍した。また、普通コースの吹奏楽部も全校応援や様々なフェスティバルに出場するなど活発に活動をした。 平成 31 年度もこの傾向を維持できるように、行事内容の一層の充実や、指導方法の向上に継続的に務めていきたい。
総合評価	C	過去 3 年間下降し続けていた生徒の満足度の数値が上昇傾向に向かったことは、過去の分析結果を踏まえて改善に取り組んだ成果だと評価したい。しかし、生徒が学校に期待することがさらに多様化しつつあることや指導案件が増加してしまったことなど、課題も多く残った年度であった。 教員一人ひとりの指導力の向上はもちろん、学年・教科・分掌で情報を共有し、一人の生徒を様々な角度から支える体制を強化していくこと、必要に応じて個別指導や全体指導を行うなど、学校としての生活・教科指導力を向上させていくことが急務である。 また、生徒一人ひとりを大切にしている教育について、本校の特色である人間関係や特別活動・課外活動を大切にしながらそれだけに満足することなく、生徒の持つ力を発見し、それを伸ばしていけるような指導に発展させていく努力をしていきたい。